

書きたい思いを喚起し、豊かに表現する指導法の工夫 ～創作文・意見文を書く活動を通して～

1 設定理由

現代の子どもたちは、SNS等、インターネット上での文字を媒介としたやりとりに慣れ親しんでいる。しかしながら、自分の思いを適切に文章で表現できなかったり、単語や短文で伝えようとしてしまったりするあまり、トラブルとなってしまうことも多い。現代の子どもたちを取り巻く環境を考えると、自分の思いや考えをしっかりと相手に伝えるために言葉を適切に使える子を育てていくことは非常に重要だろう。

本学級の子どもたちは、書くことに対して苦手意識をもっている子が非常に多い。苦手な理由を調べてみると、書く技能も目的意識も不十分であったことがうかがえた。そこで、多くの子が興味をもって書き始められる創作文と、目的意識を明確にして書き始められる意見文を書く活動を中心にして、子どもたちの「書きたい」という思いを喚起し、豊かに表現できるようにしたいと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

書く意欲と書く技能を高める指導法の工夫をすることで、「書くこと」に対しての苦手意識を取り除くことができれば、「書きたい」という思いをもち、豊かな表現で意欲的に思いや考えを書くことができるだろう。

3 研究内容

- (1) 年間を通した継続的な書く活動
- (2) 語彙を増やす実践 「5年1組オリジナル歌集（俳句・短歌）を作ろう」
- (3) 創作文を書く実践 「自分を中心人物にして物語を書こう」
- (4) 意見文を書く実践 「5年1組からの提言 一意見文を書こう」

4 結論

○書く意欲と書く技能を高める指導法の工夫をしたことで、多くの子が、「書きたい」という思いをもち、豊かな表現力で意欲的に創作文や意見文を書くことができるようになった。

○多くの子の「書くこと」に対しての目的意識や意欲を高めることができた。また、「書くこと」に対する苦手意識を取り除くことができた。

○年間を通して、さまざまな書く活動にとりくんだことで、自分の思いや考えを豊かな言葉で書けるようになった。

研究主題

書きたい思いを喚起し、豊かに表現する指導法の工夫
～創作文・意見文を書く活動を通して～

1 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

携帯電話やスマートフォン等の普及によって、現代の子どもたちは、SNS等、インターネット上での文字を媒介としたやりとりに慣れ親しんでいる。しかしながら、自分の思いを適切に文章で表現できなかつたり、受け取る側の気持ちを考えないままに単語や短文で伝えようとしてしまったりするあまり、それがもとで、トラブルとなってしまうことも多い。現代の子どもたちを取り巻くこのような環境を考えると、自分の思いや考えをしっかりと相手に伝えるために言葉を適切に使える子を育てていくことは非常に重要だと言える。

また、2016年度の全国学力状況調査の結果では、「目的や意図に応じて、グラフや表の結果を基に、自分の考えを書いたり、文章構成の効果を捉えたりすることに課題がある」と指摘されている。さらに、新学習指導要領では、「語彙指導」や「情報の扱い方に関する指導」の改善と充実が示された。これは、豊かな表現力を身に付け、情報を整理して自分の言葉で適切に表現できる子の育成を図ることの重要性を示していると考えられる。

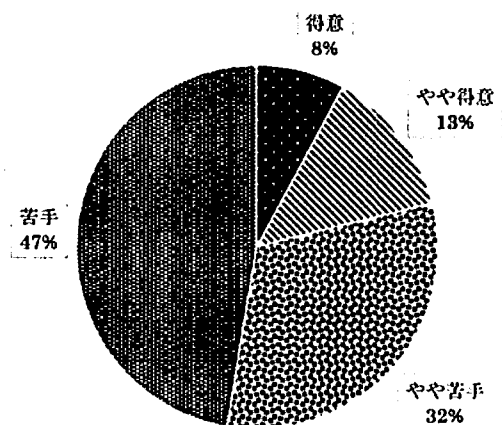
これらのことから、子どもたちの「書きたい」という思いを喚起し、豊かに表現できるようにする指導法を追究する本研究は、今日の課題の解明に応えるものになると考える。

(2) 児童の実態から（5年生 男子18人 女子20人 計38人）

本学級の子どもたちは、前学年までにいろいろな種類の文章を書く活動を行ってきたはずであるが、書くことに対して苦手意識をもっている子が非常に多い。苦手の理由としては、「どのように書けばよいかわからない」、「書くことが思いつかない」という意見が多く、書く技能も目的意識も不十分であったことがうかがえる。

このことから、子どもたちの苦手意識を取り除くとともに、「書きたい」という思いを喚起するために、書き方の指導の工夫と、子どもたちが意欲的に書こうとするようになる文章の種類の選定や題材の工夫が必要であると考えた。

そこで本研究では、多くの子が興味を持って書き始められる創作文と、目的意識を明確にして書き始められる意見文を書く活動を中心に、その指導法を探っていく。



<苦手と答えた理由>

- ・ どうやって書き始めたらよいのか分からない。
- ・ どうやって続けていけばよいのか分からない。
- ・ 書くことが思いつかない。
- ・ 何を書けばよいのか分からない。

書くことへの意識調査

2 研究仮説

書く意欲と書く技能を高める指導法の工夫をすることで、「書くこと」に対しての苦手意識を取り除くことができれば、「書きたい」という思いをもち、豊かな表現で意欲的に思いや考えを書くことができるだろう。

3 研究内容

(1) 年間を通した継続的な書く活動

目的を明確にしながら、朝の時間を活用し、年間を通して様々な種類の短作文を書く活動にとりくむ。

(2) 語彙を増やす実践 「5年1組オリジナル歌集（俳句・短歌）を作ろう」

オリジナル歌集を作ることを単元のゴールとして設定し、それに向けて言葉集めをする。言葉集めをする際にタブレットPCを活用し、一人ひとりが集めた言葉をデータベース化し、全体で共有できるようにする。

(3) 創作文を書く実践 「自分を中心人物にして物語を書こう」

書いた物語を読み合うことを単元のゴールとして設定し、それに向けて物語を書く。書くことの楽しさを感じられるようにする。

(4) 意見文を書く実践 「5年1組からの提言 ー意見文を書こう」

書いた意見文をもとに意見交流会を行うことを単元のゴールとして設定し、それに向けて意見文を書く。文章の書き方をつかめるようにする。

4 研究の実際

(1) 年間を通した継続的な書く活動

書くことを苦手としている子どもたちの技能を高めていくために、目的を明確にしながら、朝の時間（10分～15分程度）を活用し、年間を通していろいろな種類の短作文を書く活動にとりくんだ。その際、できるだけ楽しみながら書けるようにテーマや内容を工夫した。

月	ねらい	活動内容
4	書くことに慣れる	・言葉集め (例)『大』がつく言葉をたくさん集めよう ・穴埋め作文 ・あいうえお作文 ・ウソ作文【資料1】
5	身近な問題についての考えを書く	・学級内や校内の問題についての考えを書く。 (例)「席替えはどのような方法で行うのがよいか」 「挨拶を広めるにはどうしたらよいか」

6	事実と意見を区別して書く (ミニ意見文)	・気になるニュースについて取り上げた日直のスピーチについて、その内容とそれについての意見を書く。 ・「こども新聞」等の中から気になる記事についての意見を書く。
7		
9		
10		
11	書くことを楽しむ	・ものがたりレー ・ミニ意見文 ・コラム ・新聞
12		
1		
2		

とりくむ際に、子どもたちが書くことをできるだけ負担に感じることがないように、書き方の見本を用意したり、数種類の用紙（マス目、罫線、マス目も罫線もないもの等）を用意したりした。また、短い文章しか書けなかった子についても、次への意欲につながるように、書けたことを積極的に称賛した。年間を通して継続的に活動が続けたことで、始めのうちはほとんど書けなかった子が用紙を配られた途端に書き始められるようになるなど、子どもたちが感じていた書くことへの苦手意識を大幅に取り除くことができた。

（２）語彙を増やす実践 「５年１組オリジナル歌集（俳句・短歌）を作ろう」

本単元では、単元を通して行う言語活動として、「俳句・短歌作り」を設定した。そして、学習のまとめとして、子どもたち一人ひとりが作った俳句や短歌を掲載した「５年１組オリジナル歌集」を作ることを計画した。ここでは、俳句や短歌作りに向けての言葉集めに重点を置き、子どもたち一人ひとりの語彙を増やすことをねらいの１つとした。

① 目的意識をもつ

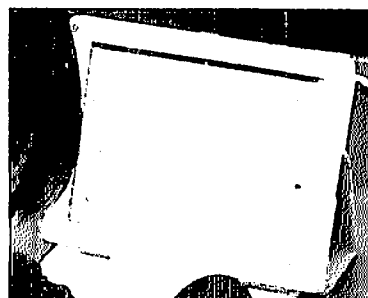
歌集作りを子どもたちにとっての目的として設定することで、ただ単に俳句や短歌を作るよりも、より意欲的に作品作りにとりくめるようにした。また、できあがった歌集は図書室などに置き、いろいろな人に見てもらえるようにした。そのようにしたことで、相手意識をもちながら、言葉を選んだり表現を工夫したりすることができた。

② 言葉集めをする

「季節を表す言葉」や「感情を表す言葉」等、テーマに沿って子どもたち一人ひとりが言葉集めを行い、タブレットＰＣを活用して入力し、データベース化した。クラス全体で１０００語を超える言葉（重複を除く）のデータベースを作成することができた。【資料２】

③ 俳句や短歌を作る

作成したデータベースを活用し、短歌や俳句を作った。データベースは言葉の「テーマ」や「音数」で検索できるようにしたため、目的に合った言葉を探しながら、作品作りをすることができた。また、データベースには、語句を登録した人の名前も入力するようにしたので、その語句について詳



しく知りたいときには、その友だちに聞くことができた。子どもたちが作品を作る際に使った「俳句シート」や「短歌シート」からは、データベースを活用し、たくさんの言葉を吟味しながら俳句や短歌作りを進めていったことがうかがえた。俳句作りや短歌作りを通して、子どもたちは大いに語彙を増やすことができた。

俳句シート (5)

5年1組オリジナル俳句集の制作

すずしげに

かきくありに

あふみ

名前 ()

短歌シート (5)

5年1組オリジナル短歌集の制作

さむさ感じる

手足がひえて

見ていたう

名前 ()

俳句シート

短歌シート

④ クラスのオリジナル歌集としてまとめる

子どもたちにとってより思い入れのあるオリジナル歌集となるように、歌集のタイトルもクラスで話し合って決めた。一人ひとりが思ったことや感じたことを俳句や短歌に込めたということで、5年1組オリジナル歌集のタイトルは『思感集』となった。俳句や短歌を作った子どもたちの思いが読み手にしっかりと伝わるように、『思感集』には作品だけでなく、句や歌に込めた作者の思いも解説として載せるようにした。【資料3】



オリジナル歌集『思感集』

(3) 創作文を書く実践 「自分を中心人物にして物語を書こう」

本単元では、単元を通して行う言語活動として「自分を中心人物にして物語を書く」ことを設定した。そして、学習のまとめとして、書いた物語を読み合う交流会を行うことを計画した。創作文は、書くことを苦手としている子どもでも、比較的とりくみやすい文種である。ここでは、書くことの楽しさを感じられるようにしたいと考えた。

① いろいろな物語に触れる

ア 「物語コーナー」の設置

教室内に「物語コーナー」を設け、子どもたちそれぞれの興味関心に応じて、自由に物語に触れられるようにした。著名な作家の物語だけでなく、小学生以下の児童が書いた作品を集めた『12歳の文学』（小学館）や『ともしび』（千葉市地域文集）に掲載された創作文も紹介した。魅力的な物語を読んだり、自分たちと同じ年ぐらいの子が書いた作品を読んだりしたことで「自分も書いてみたい」「自分にも書けそうだ」という思いを強くもつことができた。

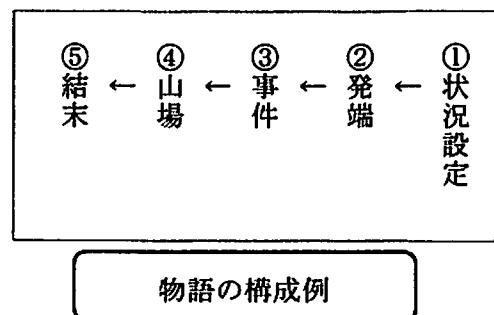
イ 「キラリと光る言葉集めカード」のとりくみ

自由に読んだ物語の中で見つけた素敵な描写を書き溜めていけるようにするために、「キラリと光る言葉集めカード」を用意した。物語を読む量に比例して、カードが1枚、2枚と増えていった。素敵な描写を探そうとすることが、子どもたちの言語感覚を養うことにもつながった。

② 書き方をつかむ

物語の例文を用意し、その構成を右図のようにとらえた。

そして、その構成に合わせて、書きたい内容を整理するための「あらすじシート」を用意した。例文をもとに構成を指導したことで、子どもたちは、物語を書く前に構成に沿ってしっかりとあらすじを考えることができた。



また、「キラリと光る言葉集めカード」に集めた描写を交流し合い、読み手をひきつける表現についても考えられるようにした。

③ 創作文を書く

ア 物語を書く

「あらすじシート」をもとに、自分を中心人物にした物語を書いていった。読み手を意識しながら、物語を書き進めていくようにした。また、登場人物や情景描写を工夫するために、「キラリと光る言葉集めカード」を随時活用できるようにした。

イ できあがった作品を交流し合う

できあがった物語を、学級の中で読み合う活動を行った。友だちの作品を読んだら、付箋によかったところやおもしろかったところを中心に、感想を書いて貼るようにした。感想には、内容のおもしろさだけでなく、文章表現のよいところについてなども書くことができていた。【資料4】

④ 「ものがたりレー」のとりくみ

創作文を書くことを「楽しい」と感じられる子が増えたので、その気持ちを持続させるとともに、さらに膨らませていくために、「ものがたりレー」という活動を考えた。これは、班の友だちと協力して下図のような流れで一つの物語を書いていくというとりくみである。



「ものがたりレー」のノート

班で1冊のノートを用意し、書く順番を決める。表紙の裏には「ものがたりレーの心得」を貼り、いつでも確認できるようにした。



主に朝自習の時間や家庭学習の時間を使って、1番めの子から順に物語を書いていく。(書く分量は特に指定しない。)



ノートが回ってきたら、そこまでの物語をよく読んで、その続きを考えて書いていく。(書く分量は特に指定しない。)



ノートが2周以上したら物語を完結させる。



できあがった作品を他の班と交流し合う。

「ものがたりレー」の進め方

このとりくみは、一人で創作文を書く活動に比べて、自由に書くという点では制約が生じてしまうが、書く活動にあまり抵抗を感じることなく、継続的に取り組めるという利点があった。また、続きを考える上で、子どもたちは友だちが書いた途中までの物語をしっかりと読むようになった。さらに、よりおもしろい物語になるように、想像力を働かせて意欲的に書こうとするようになった。子どもたちは大変意欲的にとりくんでいた。

【資料5】



(4) 意見文を書く実践 「5年1組からの提言 ー意見文を書こう」

本単元では、単元を通して行う言語活動として「意見文を書く」ことを設定した。そして、学習のまとめとして、子どもたち一人ひとりが書いた意見文をもとに意見交流会を行うことを計画した。ここでは、構成や書き出しなどの表現の工夫、論のまとめ方といった書き方をつかめるようにしたいと考えた。

① 目的意識をもつ

意見文を書く際には、子どもたち一人ひとりが「書いて伝えたい」と思う明確な意見をもつことが重要である。そのような意見をもてるようにするには、意見文のテーマが子どもたちにとって身近なものである必要があると考えた。また、伝えたいという思いを達成する場の設定も欠かせないと考えた。

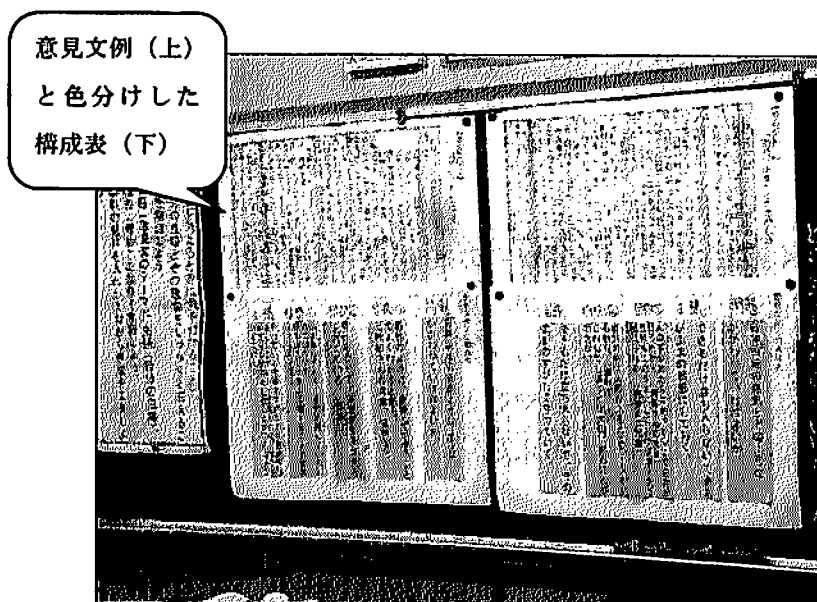
そこで、下図のような流れで学習を進め、第三次では、総合的な学習の時間にとりくんでいた「障害のある人もない人も共に生きる社会」というテーマで意見文を書き、「5年1組からの提言」という形で、隣のクラスに自分たちの意見を伝える場を設定した。このようにしたことで、子どもたちは目的意識をもちながら本単元の学習にとりくむことができた。

次	学 習 内 容
第一次	単元の終わりに意見交流会を行うというねらいをつかみ、学習計画を立てる。
第二次	「世界遺産 白神山地からの提言 ー意見文を書こう」(教科書教材)を使って、白神山地の自然保護について、意見をまとめる。その中で文章構成の仕方や資料の活用の仕方等、意見文の書き方をつかむ。
第三次	総合的な学習の時間にとりくんでいた「障害のある人もない人も共に生きる社会」の学習と関連させ、そこで調べた情報をもとに意見文を書く。書き上がった意見文を「5年1組からの提言」として、発表し合う意見交流会を行う。

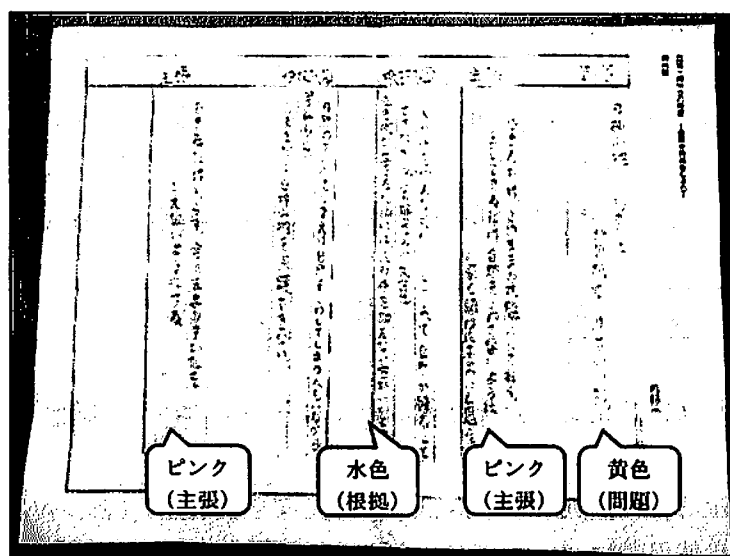
② 構成の仕方や書き方をつかむ

第二次では、「白神山地の自然とどのようにかわっていけばよいか」というテーマで意見文を書いた。その際に、複数の意見文例とその構成表を示し、どのように文章が構成されているのかをつかむとともに、書き出しの表現の仕方や論のまとめ方についても取り上げ、子どもたち自身が意見文を書く際に生かせるようにした。

特に、文章構成を考える際には、構成を工夫しやすいように、問題、主張、根拠を色別の短冊（問題：黄色、主張：ピンク、根拠：水色）に書き出した後、構成表上に並べ、最終的に貼り付けていくようにした。



意見文例とその構成表



構成表

このような手立てを通して、いろいろな構成の工夫を試してみることができ、視覚的にもはっきりと文章の構成をつかむことができた。

③ 意見文を書く

ア 意見をまとめる

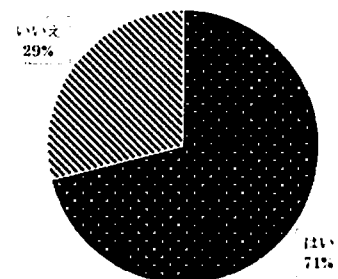
第二次では、でき上がった構成表をもとに、白神山地の自然保護について、自分の意見をまとめた。また、第三次においては、総合的な学習の時間に取り組んでいた「障害のある人もない人も共に生きる社会」というテーマで意見文を書いた。その際には、第二次で学習した構成表の書き方や意見文の書き方を生かして、スムーズに書き進めることができた。【資料6】

イ 意見を交流する

書き上がった意見文をもとに、「5年1組からの提言」という形で、隣のクラスに自分たちの意見を伝えた。それぞれの意見について質問や感想を言ってもらったことで、自分の考えをより一層深めることができた。

また、右図のように、71%の子が「別のテーマでも意見文を書いて伝えたい」と思うようになった。このことから、書き方が分かったことで、多くの子が自分の書いた意見文に満足できたことが分かった。さらに、意見文を書いた後に意見交流会を設定したことが、子どもたちの「書きたい」という意欲を喚起することにつながっていたこともうかがえた。

「別のテーマでも意見文を書いてみたいですか。」



交流会後のアンケート

- 楽しかった。
- 緊張した。
- 交流会があったので、「2組に伝えたい」という思いをもって意見文を書くことができた。
- いつもよりたくさん書けた。
- 自分の伝えたいことを書くことができた。
- 白神山地の自然保護について書いた意見文よりもすらすら書けた。
- 自分の意見に対して感想を言ってもらえて嬉しかった。
- 緊張したけれど、自分の意見を伝えられたと思う。
- また別のテーマでやりたい。

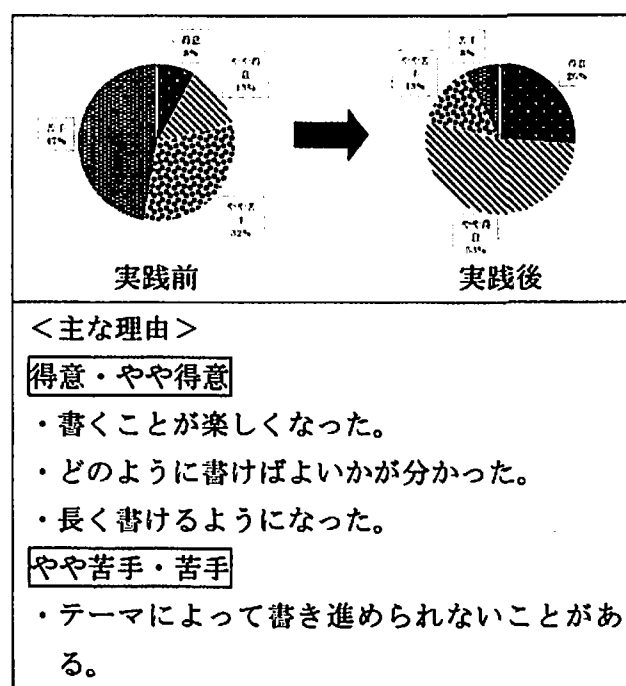
交流会後の感想

5 成果と課題

(1) 成果

① 意識の変容

実践前と同様に、「書くことの得意・不得意」についての意識調査を行ったところ、実践前には「得意」「やや得意」と答えた子が21%しかいなかったのが、実践後には79%にまで増えた。実践を通して、多くの子の「書くこと」に対しての目的意識や意欲を高めることができたと同時に、「書くこと」に対する苦手意識を取り除くことができたと考えられる。また、「得意」と答えた理由からは書き方を学び、目的意識をもって書けるようになったことで、「書くことが楽しい」と感じられる子が増えたことが分かる。



「書くこと」に対する意識の変容

② 書く技能の変容

年間を通して、さまざまな書く活動にとりくんだことで、始めはなかなか書けなかったり、短い言葉で感想程度を書くだけだったりした子も、自分の考えを豊かな言葉で書けるようになった。

意見文を書く実践の前後において、書き終えた意見文の分量（400字詰原稿用紙の枚数）の変容を見ると、実践後には2.5倍の分量の意見文を書けるようになった。これは、子どもたちが何をどのように書けばよいか分かり、豊かな表現力で意欲的に書けるようになったためだと考えられる。

	実践前	実践	実践後
分量（平均）	0.8枚	1.8枚	2.1枚

意見文の分量の変容

(2) 課題

書く意欲と書く技能を高める指導法の工夫をしたことで、多くの子が、「書きたい」という思いをもち、豊かな表現力で意欲的に創作文や意見文を書くことができるようになった。しかし、少数ではあるが、依然として「書くことが苦手」と感じている子がいる。そのような児童のつまずきの原因を明確にし、つまずきの原因に応じた指導法の工夫をさらに考えていく必要がある。また、「書くこと」への意欲を持続させつつ、作文する文種を創作文や意見文以外にも広げていきたい。

資料編

〇〇に似ています

名前

ウソの作文を書きます。

「本当かあ〜?!」とつつこみをいれたくなるようなウソ作文にしましょう。

わたし（ぼく）は 入れ歯 に似ている
とよく言われます。

ときどき、^{まち}街を歩いていると、まちがわれることが
あります。この間も……

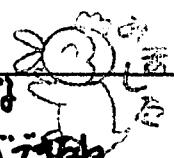
スーパーで買い物をしている時に「なんで、こんな
に大きい、入れ歯が落ちてるの？」とまちがわれました。
わたしは「入れ歯なんかありません」と言
うと、「うそだあー」と、けいさつに通報されました。

本当にあの時は苦労しました。

そして、店で、300円で売られて、おじいちゃんの口
の中に入れられました。そのおじいちゃんの口の中は
とてもくさかたです。

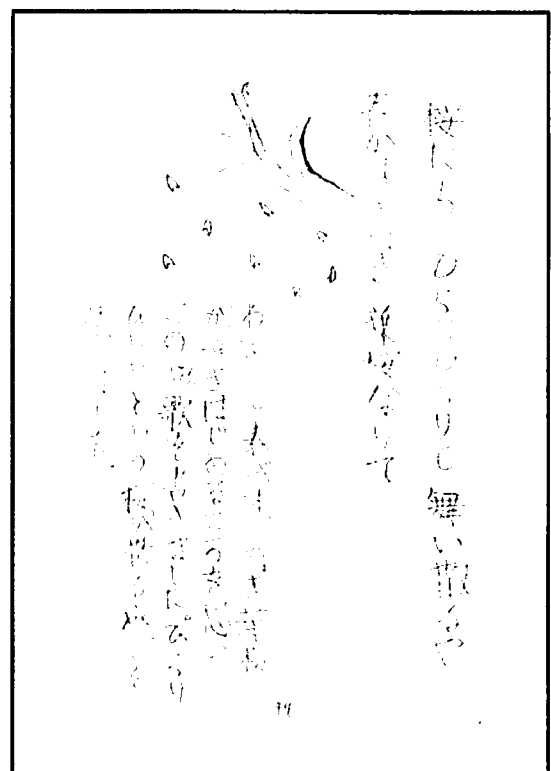
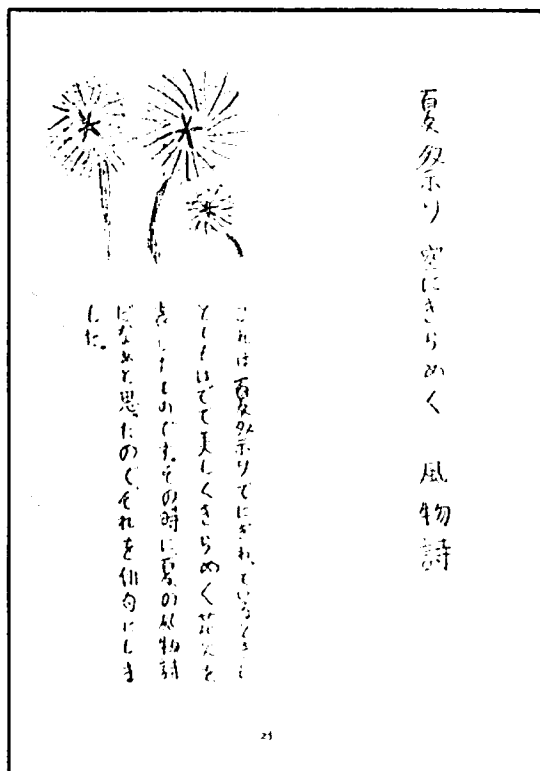
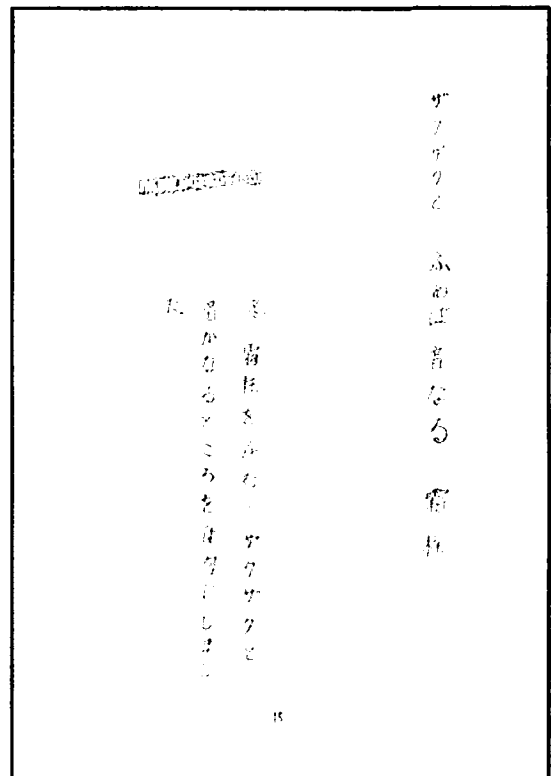
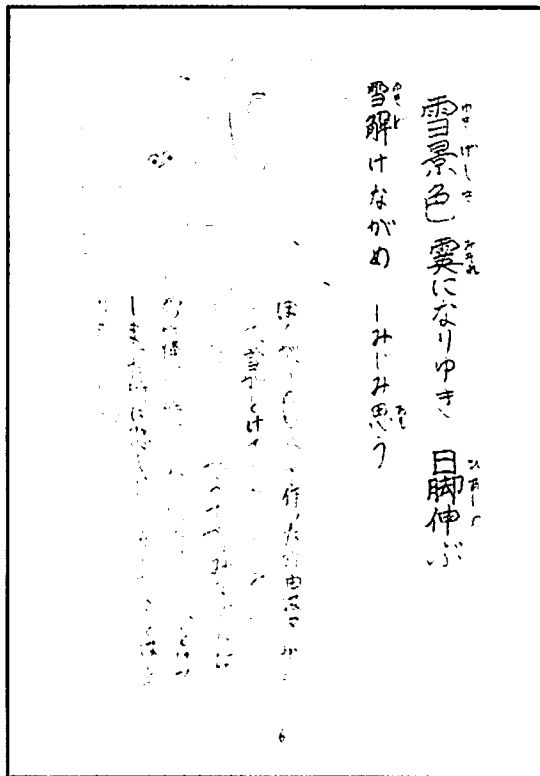
これはウソです。

入れ歯を小じ運ぶのは
怖い。おじいちゃんに口の中を
覗かされたのは
怖い。



レコード番号	【言葉】(ひらがな)	【名前】(ひらがな)	【分類】春・夏・秋・冬・気持ち・かっこいい	【漢字】※書かなくてもOK	【意味】動物・植物・食べ物・様子・その他	【音数】2・3・4・5・6・7
1029	じゃんばあ		冬		その他	4
1028	やすむ		気持ち	休む	様子	3
1027	いっとうりょうだん		かっこいい	一刀両断	その他	7
1026	とら		春、夏	虎	動物	2
1025	はごべ		春		植物	3
1024	かおり		春		その他	3
1023	きんめだい		春	金目鯛	食べ物	5
1022	なつじかん		夏	夏時間	様子	5
1021	れっか		かっこいい	烈火	その他	3
1020	せまる		気持ち		気持ち	3
1019	つばき		春	椿	植物	3
1018	にがつ		冬	二月	その他	3
1017	ぶれぜんと		冬		その他	5
1016	たちうお		秋	太刀魚	食べ物	4
1015	なつやま		夏	夏山	その他	4
1014	ごうざん		かっこいい	豪斬	その他	4
1013	ほのか		春		その他	3
1012	おせち		冬		食べ物	3
1011	ちよとつもうしん		かっこいい	猪突猛進	様子	7
1010	あたらしい		春	新しい	その他	5
1009	しゅんぶん		春		その他	4
1008	こうさん		気持ち	降参	様子	4
1007	うんどうかい		夏	運動会	行事	6
1006	なつむき		夏		様子	4
1005	かきぞめ		冬	書き初め	行事	4
1004	いもほり		秋		行事	4
1003	はくちょう		冬	白鳥	動物	5
1002	いしやきいも		秋		食べ物	6
1001	ごーぐる		夏		その他	3
1000	りゅうおう		かっこいい	竜王	その他	5
999	くじら		夏	鯨	動物	3
998	すばこ		春		その他	3
997	さくらじま		春	桜じま	様子	5
996	しゅんぎょう		春		その他	4

レコード番号	【言葉】(ひらがな)	【名前】(ひらがな)	【分類】春・夏・秋・冬・気持ち・かっこいい	【漢字】※書かなくてもOK	【分類】動物・植物・食べ物・その他	【音数】2・3・4・5・6・7
1065	ほととぎす		夏	時鳥	動物	5
1064	あつきひ		夏		その他	4
1063	えすとにあ		かっこいい		その他	5
1062	なまはげ		かっこいい		その他	4
1061	ゆきみち		冬	雪道	その他、様子	4
1060	ふんえん		かっこいい	噴煙	行事	4
1058	きょうりゅう		かっこいい	恐竜	その他	4
1057	はなむしろ		春	花むしろ	その他	5
1056	ばばいや		夏		植物	4
1055	あきあき		気持ち		気持ち	4
1054	おりんびっく		夏		行事	6
1053	れいんぼー		かっこいい		その他	5
1052	かたつむり		春		動物	5
1051	まんもす		冬		動物	4
1050	しんきゅう		春	進級	行事、様子	5
1049	ゆうき		気持ち	勇気	気持ち	3
1048	はいびすかす		夏		植物	6
1047	えくあどる		かっこいい		その他	5
1046	なつく		気持ち		気持ち	3
1045	たいがー		かっこいい		動物	4
1044	もぐら		春		その他	3
1043	にんじん		冬		植物、食べ物	4
1042	あいばっど		かっこいい		その他	5
1041	しゅうまつ		かっこいい	終末	様子	5
1040	ざりがに		夏		動物	4
1039	らじうむ		かっこいい		その他	4
1038	なつめそうせき		かっこいい	夏目漱石	その他	7
1037	そらまめ		春		食べ物	4
1036	れあめたる		かっこいい		その他	5
1035	きつつき		秋	啄木鳥	動物	4
1034	ふしあわせ		気持ち	不幸せ	気持ち	5
1033	じゅういちがつ		冬	十一月	その他	6
1032	たき		夏		その他	2
1030	かおからひがでる		気持ち	顔から火が出る	気持ち	8



上へは夕方の空に
 せ、かくの上階にのぼりか
 んがねにくだり、た
 と、五い方から、はね、てし、た
 何時間おは、たかわからな、はとね、て
 し、た、自らの顔を、わが、周りが、てし、
 る、
 とりあ、す、目を、開、て、を、い、見、だ、
 の、い、思、ひ、か、ね、い、た、は、顔、か、真、
 白になり、な、し、し、く、考、え、た、
 あ、これ、もし、し、か、し、く、五、年、前、の、
 日、ト、さ、の、い、ろ、ろ、の、あ、た、た、
 い、その、中、に、は、多、く、見、て、い、る、風、景、と、
 大、同、じ、な、か、あ、た、
 、あの、時、の、す、と、目、だ、
 、その、す、は、か、小、さ、い、さ、う、一、番、好、ま、
 た、す、だ、と、い、た、か、れ、ど、その、す、の、物、語、を、見、
 えて、る、は、ま、た、と、考、え、た、す、と、つ、て、
 と、思、ひ、か、ね、あ、た、す、い、た、り、と、こ、れ、ら、い、

19.1 9-10 20/20

た、
 も、れ、か、れ、た、ら、その、オ、の、物、語、と、お、り、下、す、
 は、上、手、く、い、く、ん、を、い、ない、か、
 と、考、え、た、は、れ、ど、それ、は、その、オ、の、物、語、だ、か、
 ら、す、め、し、う、と、考、え、た、は、れ、ど、す、と、考、え、て、
 も、何、も、思、い、う、か、け、な、い、の、で、し、か、た、な、く、オ、の、物、
 語、と、お、り、に、し、た、
 、え、と、す、す、は、未、来、の、目、的、に、す、は、つ、つ、
 と、も、ら、い、
 か、言、て、い、る、と、中、目、の、前、に、は、自、動、で、延、転、
 する、車、が、あ、た、
 、これ、に、の、て、い、け、は、い、い、の、か、な、
 け、の、車、に、の、る、こ、と、に、し、た、の、た、た、
 ん、も、の、す、こ、い、い、う、よ、い、に、走、り、た、し、た、
 は、そ、こ、で、気、を、失、な、て、し、た、
 気、か、つ、く、こ、ろ、で、は、り、か、高、く、自、分、に、そ、
 くり、な、ん、か、さ、し、い、た、その、人、は、を、見、る、
 と、
 、もし、か、し、て、か、の、目、分、の、あ、な、た、
 前、を、ん、て、い、ろ、の、

19.1 9-10 21/22

と聞かれた。は

「すい」

と答えた。自分にそっくりな女の人。は未来の自分らしい。

「わたしも」というの、てゆことはい

「うの、箭をあげない」とい

は首をかしめた。未来の自分はそれをして

る。

「今の時代」(カ)からタイ(ハ)の、(ニ)と(三)来る人が多いの。だから記念の印にすけうの

箭をあげる、と(カ)から(ニ)と(三)と

と言われ、さしあげると、たうけすけ、の、箭

た。

「それは、一回しか使えなくて、身の、けん

と、感じたら、使えぬ、

と、言われた。は、その、未来の自分と、別

た、し、けらく歩いて、いると、とても、さ、れ、い、な、い、

か、あ、た、の、す、い、入、ま、し、ま、た、

し、けらく、あ、い、い、る、と、暗、く、な、て、ま、た、お

かしい、な、と、思、て、起、り、を、見、ま、わ、れ、た、な、ん

1971 9-12 20421

だ、か、死、な、う、な、気、か、し、た、その、と、う、と、し

ライオン、ド、に、大、大、さ、な、物、物、か、何、十、匹、も、表、わ、れ

た。その、ライオン、た、ら、は、と、見、る、と、の、し、つ

し、と、歩、い、て、ま、た、気、か、つ、け、は、ライオン、た

ち、は、と、取、り、か、か、ん、て、い、た、は、冷、や、チ

を、た、く、さ、ん、か、い、て、い、る、その、と、さ、ふ、と、思、い、つ

いた、未来の、つ、さ、葉、を、は、箭、に、口、を

あ、て、て、ノ、ロ、テ、を、ふ、い、た、そ、う、し、た、ら、ライ

オン、た、ら、は、の、近、く、に、さ、い、お、す、わ、り、し、た、

箭、を、ふ、く、の、を、や、め、る、と、ライオン、た、ら、は、言

葉、を、し、へ、り、は、じ、め、た、

「あ、り、か、と、う、さ、み、の、お、か、け、と、助、か、た、

け、た、ち、す、と、弱、い、者、い、じ、め、を、し、て、大、人、た、り

ど、し、み、の、箭、を、助、か、た、人、だ、友、達、の、印、に、け、く

た、ら、う、の、手、形、を、あ、げ、る、

と、言、わ、れ、て、手、形、を、も、り、た、女、う、し、ん、か、ん

ク、ラ、ッ、と、し、て、は、お、む、つ、て、し、ま、た、

気、か、つ、く、と、自、分、の、計、画、ド、い、た、あ、れ、は、ゆ、め

か、と、思、た、ら、チ、に、な、に、か、を、ほ、き、て、い、た、そ

水、は、手、形、と、す、け、う、の、箭、だ、た、

1971 9-12 20421

月 日 曜日 大気

3/8

(再)

一人一人が、自分の生活の中で、
 何を、どうやって、
 生きていくのか、
 その原因は、
 どういうことか、
 いろいろと、
 考えてみる。

ものがたりレーの心得

- 一、みんなですべてを体験と
成長とをせし。
- 一、そこまでの物語をいかに
よく、伝えるかをせし。
- 一、お話をいかに人々の心は
受けし。
- 一、ほかの人が読んで、
お話をきくのをせし。
- 一、お話をきくのをせし。
- 一、お話をきくのをせし。
- 一、お話をきくのをせし。

ノートがまわってくるのが
待ちどおしいぞ！

どんな物語になっていく
のか楽しみだな！

[illegible]

声をかけるゆう気

みなさんはしょう害のある人どのようなに
関わっていきまうか。

私はまず、困っているたら声をかけてみると
いいと思います。

助け方は色々あると思います。

耳が悪かったら紙にかいたり、目が見えなかつたら声をかけて困っている人が何を困っているかをさくとか、車いすの人が困っているたらあしてあげるなど色々ありますね。

このように声をかければ自分でも助けられることがあるかもしれない。

もしも、自分じゃ助けられなかったら大人の人にだようたりすればいいですよ。

その他にも学校、お店でぼきんしてたら、お金を入るとかもあります。

学校やお店でしょう害の人にわたされるぼきんをや。ていれば少しのお金でも役だてばしょう害のある人も入れた私達もうれしいです。

17.1 9-10 2020

よね。

このように困っている人を見かけたら声をかけたり学校やお店でぼきんしたりしてしょう害のある人と助けあえるといいと思います。

声をかけるときドキドキするかもしれないが声をかけるゆう気をもってみませんか。

17.1 9-10 2020

障害者の方と、共に生きるためには
 私は、障害のある人もない人も共に生きる
 には、障害のない人の手助け、やさしさか
 必要だと考えます。
 そう考える一つ目の理由は、障害のある人
 が不自由なことがないように、いろいろな道
 具をつか開発されてきていますが、まだ不
 自由なことが多く、人あふかです。また
 不自由なことがあるので、障害のない人の
 やさしさが大切なのです。
 二つ目の理由は、障害のある人は、たふに
 手助けしてもらえず、じっとしていることがあ
 ります。みなさん、さうして、言葉を発しな
 ければ、せき、くるときに、声をかけとあげ
 ましょう。
 三つ目の理由は、スーパーなどに、お買物
 に行かれた時に、障害のある人はいろいろと大
 変です。たとえば、車いすの人は、たなの上
 にある物を、とろつとしても手ばとびきませ

人。障害者の方たちは、いろいろと苦勞をし
 ています。
 このようは三つの理由から、障害者の方た
 ちは、いろいろな人の手助け、やさしさが必要
 だと考えます。みなさん、困、ている人を
 みかけたら、せき、くるときに、声をかけて
 あげましょう。これが私の意見です。